

二宮尊徳

2015 年本試

問 6 次のア～ウは，理想的な人倫や，それを実現するための実践をめぐる様々な考え方を示した，江戸時代の思想家についての説明であるが，それぞれ誰のことか。その組合せとして正しいものを，下の①～⑧のうちから一つ選べ。

25

ア 近世の封建的身分秩序のなかで，善を実現するには，居敬窮理の工夫が必要であると説いた。居敬窮理とは，欲望を抑えて心身をつつしみ，天地や人倫の秩序を根拠づける上下定分の理を，明らかにすることである。

イ 農民に寄生する武士が支配者として上に立つ当時の社会を批判し，理想社会としての自然世へ復帰すべきであると説いた。自然世とは，すべての人々が平等に田畑を耕し，衣食住を自給する社会のことである。

ウ 農業とは天道と人道があいまって成立する営みである，との考えに基づき，勤労や儉約といったあるべき生活態度を説いた。天道とは自然の営みのこと，人道とは，そこから人間が恵みを得ようとする作為のことである。

- |   |   |      |   |      |   |      |
|---|---|------|---|------|---|------|
| ① | ア | 藤原惺窩 | イ | 安藤昌益 | ウ | 石田梅岩 |
| ② | ア | 藤原惺窩 | イ | 安藤昌益 | ウ | 二宮尊徳 |
| ③ | ア | 藤原惺窩 | イ | 貝原益軒 | ウ | 石田梅岩 |
| ④ | ア | 藤原惺窩 | イ | 貝原益軒 | ウ | 二宮尊徳 |
| ⑤ | ア | 林羅山  | イ | 安藤昌益 | ウ | 石田梅岩 |
| ⑥ | ア | 林羅山  | イ | 安藤昌益 | ウ | 二宮尊徳 |
| ⑦ | ア | 林羅山  | イ | 貝原益軒 | ウ | 石田梅岩 |
| ⑧ | ア | 林羅山  | イ | 貝原益軒 | ウ | 二宮尊徳 |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第3問	問6	25	⑥	3

2014 年本試

問 5 二宮尊徳の思想の説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ  
選べ。 24

- ① 動物は，春には草を秋には木の実を食物とするほかはないが，人間は，一年中米を食べることができる。これは，人間の努力の結果であるので，人間は，天地の恩ではなく，他者の恩を自覚すべきである。
- ② 動物は，目の前にある食物を満足するまで食べてしまうが，人間は，今年のを来年に残すことができる。これが人間の特徴であり，人間は，将来にそなえて貯蓄し，その蓄えによって他者に貢献すべきである。
- ③ 植物は，天地自然の働きによって成長するが，農業を営む人間にとって，雑草の成長は都合が悪いものである。しかし，人間は，天地の恩を思い，雑草を含めたすべての生命を慈しみ尊重すべきである。
- ④ 植物は，天地自然の働きによって，葉を茂らせ根を広げるが，これは，自らの欲望を自由にあらわした姿である。だから，人間は，植物を見習い，常に自らの願望を満たすように生きるべきである。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 5	24	②	3



2008 年追試

問 4 「農は万業の大本」であると説いたことに関して、次のような文章が伝えられている。この文章を参考にしながら、二宮尊徳の人道に関する説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 17

それ人道は譬<sup>たとへ</sup>ば、水車<sup>みづぐるま</sup>の如<sup>ごと</sup>し。その形半分は水流<sup>した</sup>に順<sup>したが</sup>ひ、半分は水流<sup>き</sup>に逆<sup>さ</sup>ふて輪廻<sup>まは</sup>す。丸に\*水中に入れば廻<sup>まは</sup>らずして流るべし、又水を離るれば廻ることあるべからず。……人の道もその如く天理に順<sup>したが</sup>ひて種を蒔<sup>ま</sup>き、天理に逆<sup>さ</sup>ふて草を取り、欲<sup>した</sup>に随<sup>したが</sup>ひて家業を励<sup>ま</sup>み、欲を制<sup>さ</sup>して義務を思ふべきなり。

(『二宮翁夜話』)

\*丸に：まるごと

- ① 尊徳は、自然の法則に従い、人為を極力減らして自然の恵みに感謝する農業こそ人間の営みの基本だとして、天道が人道に優先することを説いた。
- ② 尊徳は、自然の法則に抗しつつ、自分の欲望に従って生産する農業こそ人間の営みの基本だとして、人道が天道に優先することを説いた。
- ③ 尊徳は、人間は自然の法則に従うだけではなく、抗するような活動も行うのが農業であり、天道と人道を調和させる必要があると説いた。
- ④ 尊徳は、人間は自然の法則に抗することができないため、自然と一体となる農業を通じて、天道と人道の一致を回復すべきだと説いた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 4	17	③	3